

# 統合診療棟

(2025年5月7日開院)  
Integrated Care Building



## 大阪大学医学部附属病院 統合診療棟

### 「統合診療棟」について

本院では、高度で安全な医療を通して、患者さんに安心と満足を提供することを目指して日々の診療を行っていますが、1993年に中之島から吹田へ移転してから30年以上が経過したこともあり、老朽化や狭隘化が目立つようになってきました。

そこで、本院に課せられた、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトのもと、2013年に再開発計画を始動しました。

地中障害物の撤去による工期延長や社会情勢の影響による建築費の高騰などさまざまな困難に直面ましたが、12年の月日を要し、ようやく現病院の北側に新棟である「統合診療棟」が

完成し2025年5月7日に開院しました。

新棟には、外来診療施設、手術部などの中央診療施設のほか、総合周産期母子医療センター、アイセンターなど病院の高度機能を支える部門が設置されています。

また、大学病院でしかできない臨床医学研究・開発のための未来医療センターやバイオリソースセンターといった収益に結びつかない将来の医療に必要な部門も含まれており、これまで以上にすばらしい診療体制が整うこととなります。

今後は、新病棟の整備も行うことを予定しており、より一層発展した医療を提供し、未来を見据えてさらに発展・進化していく阪大病院にどうかご期待していただきたいと思います。

### [統合診療棟の機能(各フロア)]



8階	発電機室・熱源機械室等
7階	医療情報部、未来医療開発部(CPC施設)
6階	【新設】アイセンター(眼科) 外来・入院・手術室(3室)を1フロアに包括的に整備。
5階	総合周産期母子医療センター 産科部門・新生児部門・外来を1フロアに包括的に整備。 NICUを、現有の9床から12床に、GCUを、現有の6床から12床に拡充。
4階	手術部、集中治療部(ICU) 手術室を、現有の21室から25室に拡充。 (うち3室は6階アイセンター内に整備) ICUを、現有の29床から34床に拡充。 (統合診療棟に14床、現病棟に20床)
3階	臨床検査部、輸血・細胞療法部、材料部、病理部
2階	各診療科外來(診察室、処置室等) 診察室の規格を統一・拡張し、フレキシブルな使用が可能。 内科系の処置室を、中央処置室に集約。
1階	総合案内、患者包括サポートセンター 各診療科外來
B1階	放射線部(心カテル・IVR・放射線診断) 内視鏡センター 心カテル室およびIVR室を、現有の2室から3室に拡充。(将来対応を含む) 内視鏡センターの非透視室を、現有の6室から9室に拡充。
B2階	【新設】バイオリソースセンター 放射線部(放射線治療) 生物遺伝資源を高品質に保存・管理し、ゲノム医療の臨床提供に寄与。 放射線治療装置を現有の2台から3台に拡充。



4階手術室



5階NICU



6階アイセンターコロナ

各手術室は7.5mx8.5mを基本に構成し、さまざまな診療科の手術に対応すると共に、多くの医療機器を配置できる余裕のある汎用性の高い手術室としている。

NICU(Neonatal Intensive Care Unit・新生児集中治療室)は9床から12床とし、うち1床は重症対応の個室として計画。壁および天井には、赤ちゃんに直接風が当たらないよう輻射空調パネルを採用。

【光がつなぐ世界一のアイセンタ】をコンセプトに、光を効果的に利用した内装計画としている。(ゴボ照明による床上エリアサンク、照明内蔵手すり、天井部間接照明等)